



サービス プロファイル更新の遅延展開

- [サービス プロファイルの遅延展開 \(1 ページ\)](#)
- [メンテナンス ポリシー \(3 ページ\)](#)
- [遅延展開のための保留アクティビティ \(8 ページ\)](#)

サービス プロファイルの遅延展開

サービス プロファイルの変更の一部、またはサービス プロファイルテンプレートの更新は、中断を伴うことや、サーバのリブートが必要になることがあります。ただし、これらの中断を伴う設定変更をいつ実行するかを、遅延展開によって制御できます。たとえば、サービス プロファイルの変更をすぐに展開するか、指定されたメンテナンス時間帯に展開するかを選択できます。また、サービス プロファイルの展開にユーザの明示的な確認応答が必要かどうかを選択できます。

遅延展開は、サーバとサービス プロファイルとの関連付けによって発生するすべての設定変更に使用できます。これらの設定変更は、サービス プロファイルへの変更、サービス プロファイルに含まれるポリシーへの変更、更新サービス プロファイルテンプレートへの変更によってプロンプト表示される場合があります。たとえば、サーバBIOS、RAIDコントローラ、ホストHBA、ネットワークアダプタなどのホストファームウェアパッケージや管理ファームウェアパッケージによって、ファームウェアのアップグレードおよびアクティブ化を延期することもできます。ただし、Cisco UCS Manager、ファブリックインターコネクト、I/Oモジュールなど、ファームウェアパッケージを使用しないコンポーネントのファームウェアイメージの直接展開を遅延させることはできません。

遅延展開は、サーバのリブートを必要とする次のアクションに使用できません。

- サーバのサービス プロファイルの最初の関連付け
- サービス プロファイルと別のサーバを関連付けない、サービス プロファイルのサーバからの関連付けの最終解除
- サーバの解放
- サーバの再認識
- サーバのリセット

サービス プロファイル変更の展開を遅延させる場合、1つ以上のメンテナンス ポリシーを設定し、各サービス プロファイルにメンテナンス ポリシーを設定する必要があります。展開が発生する時間帯を指定する場合、1つ以上の繰り返しオカレンスまたはワнтаイム オカレンスを持つスケジュールを少なくとも1つ作成し、そのスケジュールをメンテナンス ポリシーに含める必要があります。

遅延展開のスケジュール

スケジュールには、一連のオカレンスが含まれます。これらのオカレンスは、1回だけ発生させるか、または毎週指定した日時に繰り返し発生させることができます。オカレンスの時間帯や実行されるタスクの最大数といった、オカレンスで定義されるオプションにより、あるサービス プロファイルの変更が展開されるかどうかが決まります。たとえば、最大時間長またはタスク数に達したため特定のメンテナンス時間帯に変更を展開できない場合、この展開は次のメンテナンス時間に持ち越されます。

各スケジュールは、Cisco UCS ドメインが1つまたは複数のメンテナンス時間帯に入っているかどうか、定期的に確認します。入っている場合、スケジュールはメンテナンス ポリシーで指定された制限に対し適切な展開を実行します。

スケジュールには、スケジュールに関連付けられたメンテナンス時間を決定する1つ以上のオカレンスが含まれています。オカレンスは次のいずれかになります。

ワнтаイム オカレンス

ワнтаイム オカレンスは、単一のメンテナンス時間を定義します。これらの時間帯は、その時間帯の最大時間長まで、または時間帯の中で実行可能なタスクの最大数に達するまで継続されます。

繰り返しオカレンス

繰り返しオカレンスは、一連のメンテナンス時間を定義します。これらの時間帯は、タスクの最大数に達するまで、またはオカレンスに指定された日の終わりに達するまで継続します。

遅延展開に関するガイドラインおよび制限事項

サービス プロファイルの関連付けの変更とメンテナンス ポリシーのオプション

サービス プロファイルの関連付けを変更する場合、次のメンテナンス ポリシーのオプションが変更の適用方法に影響する可能性があります。

- メンテナンス ポリシーで [On Next Boot] および [User Ack] オプションが有効になっている場合、サービス プロファイルの関連付けの変更では、確認が必要であるという警告が表示されます。ただし、関連付けはすぐに行われます。
- メンテナンス ポリシーで [On Next Boot] および [User Ack] オプションが有効になっていない場合、サービス プロファイルの関連付けの変更では、確認が必要であるという警告が表示され、確認されるまで保留されます。

サービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートへのすべての変更を元に戻すことはできない

保留中の変更をキャンセルする場合、Cisco UCS Manager はサーバを再起動せずに変更のロールバックを試みます。ただし、複雑な変更を行った場合、Cisco UCS Manager では変更をロールバックするために2回目のサーバリブートが必要になることがあります。たとえば、vNICを削除すると、Cisco UCS Manager はサービス プロファイルに含まれているメンテナンス ポリシーに従ってサーバをリブートします。サービス プロファイルで元のvNICを復元しても、この再起動および変更はキャンセルできません。代わりに、Cisco UCS Manager は2回目の展開とサーバのリブートをスケジュールします。

サービス プロファイルの関連付けはメンテナンス時間の境界を超えてもよい

Cisco UCS Manager がサービス プロファイルの関連付けを開始した後は、スケジューラとメンテナンス ポリシーによって手順を制御する方法がなくなります。割り当てられたメンテナンス 時間内にサービス プロファイルの関連付けが完了しない場合、プロセスは完了するまで続行されます。たとえば、段階の再試行やその他の問題のために時間内に関連付けが完了しなかった場合に、このような状況が発生することがあります。

保留中のアクティビティの順序を指定できない

スケジュールされた展開は、独立して並行実行されます。展開が発生する順序は指定できません。また、あるサービス プロファイルの変更を他のものの完了を条件として実行することもできません。

保留中のアクティビティの部分的な展開を実行できない

Cisco UCS Manager は、サーバ プロファイルに加えられたすべての変更をスケジュールされたメンテナンス 時間に適用します。サービス プロファイルに複数の変更を加えた後にそれらの変更を別々のメンテナンス 時間に振り分けることはできません。サービス プロファイルの変更を展開するとき、Cisco UCS Manager はデータベース内の最新の設定に一致するようにサービス プロファイルを更新します。

メンテナンス ポリシー

メンテナンス ポリシーは、サービス プロファイルの変更の展開方法を指定します。展開は、次のいずれかの方法で実行されます。

- 即時
- ユーザが管理者権限で承認したときに実行
- スケジュールで指定された時間に自動的に実行
- ユーザによる確認応答の待機またはタイマー スケジュール オプションを伴わない次のリブートまたはシャットダウン時に実行

[On Next Boot] が機能するには、ブレードまたはラック サーバの UCSM と CIMC バージョンで、3.1.x バンドルのファームウェアが実行されている必要があります。

メンテナンス ポリシーで [On Next Boot] オプションが有効にされている場合、Cisco UCS Manager リリース 3.1(1) 以降を Cisco UCS Manager リリース 2.2(8) より前のリリースにダウングレードすると、ファームウェアダウングレードが失敗します。ダウングレードを継続するには、メンテナンス ポリシーから [On Next Boot] を無効にします。

メンテナンス ポリシーでソフト シャットダウンタイマーを使用すると、ハードシャットダウンを実行するまでの待機時間を設定できます。ソフトシャットダウンタイマーは、次のようにサーバを再起動するときに適用されます。

- [Gracefully Restart OS] オプションを使用してサーバをリセットします。
- [In case of graceful shutdown failure, a hard shutdown will be issued after X seconds] オプションを使用してサーバをシャットダウンします。
- サーバの再起動が必要なサービス プロファイルを変更します。

スケジュール済みのメンテナンス ウィンドウ中に変更を展開するように設定されているメンテナンス ポリシーでは、ポリシーに有効なスケジュールが含まれていることが必要です。この場合、最初に使用可能なメンテナンス ウィンドウ中に変更が展開されます。



(注) メンテナンス ポリシーでは、関連付けられたサービス プロファイルに設定変更が加えられた場合に、サーバの即時リブートは回避できますが、次のアクションの即時実行は回避されません。

- 関連付けられたサービス プロファイルのシステムからの削除
- サーバ プロファイルのサーバからの関連付けの解除
- サービス ポリシーを使用しないファームウェア アップグレードの直接インストール
- サーバのリセット

メンテナンス ポリシーの作成

始める前に

このメンテナンス ポリシーを自動遅延展開用に設定する予定の場合は、スケジュールを作成します。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。

ステップ 2 [Servers] > [Policies] の順に展開します。

ステップ3 ポリシーを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ4 [Maintenance Policies] を右クリックし、[Create Maintenance Policy] を選択します。

ステップ5 [Create Maintenance Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

| 名前 | 説明 |
|---------------------|--|
| [Name] フィールド | <p>ポリシーの名前。</p> <p>この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p> |
| [Description] フィールド | <p>ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。</p> <p>256文字以下で入力します。任意の文字またはスペースを使用できます。ただし、` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャラット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。</p> |

| 名前 | 説明 |
|--|---|
| [Soft Shutdown Timer] ドロップダウン リスト | <p>このタイマーを使用して、Cisco UCS Manager がサーバをシャットダウンして再起動を実行するまでの時間（秒数）を指定できます。Cisco UCS Manager は、メンテナンス ポリシーで指定されたこの待機時間が経過した後でハードシャットダウンを実行します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• [150 Secs] : Cisco UCS Manager は 150 秒の待機時間が経過して時点でハードシャットダウンを実行してサーバを再起動します。• [300 Secs] : Cisco UCS Manager は 300 秒の待機時間が経過して時点でハードシャットダウンを実行してサーバを再起動します。• [600 Secs] : Cisco UCS Manager は 600 秒待機してからサーバのハードシャットダウンとリブートを実行します。• [Never] : Cisco UCS Manager はサーバのシャットダウンを実行しません。 |

| 名前 | 説明 |
|-----------------------|--|
| [Reboot Policy] フィールド | <p>サービス プロファイルがサーバに関連付けられたとき、またはサーバにすでに関連付けられているサービス プロファイルに変更を加えたときは、プロセスを完了するためにサーバをリブートする必要があります。[Reboot Policy] フィールドは、このメンテナンス ポリシーを含むサービス プロファイルのいずれかに関連付けられたサーバをリブートする時期を決定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Immediate] : サービス プロファイルの関連付けが完了するか、サービス プロファイルの変更を保存するとすぐに、サーバが自動的にリブートされます。 • [User Ack] : サービス プロファイルに行われた変更は、保留中のアクティビティを明示的に確認するまで関連サーバに適用されません。 • [Timer Automatic] : Cisco UCS は、すべてのサービス プロファイルの関連付けを [Schedule] フィールドに表示されているスケジュールによって定義されているメンテナンス時間まで延期します。 • [On Next Boot] : このオプションは、[User Ack] または [Timer Automatic] のいずれかと組み合わせて使用します。[On Next Boot] オプションが有効な場合、ホスト OS のリブート、シャットダウン、リセット、またはサーバリセットとシャットダウンにより、[User Ack] を待っている変更を適用する関連 FSM または [Timer Automatic] メンテナンス ウィンドウもトリガーされます。 <p>(注) [On Next Boot] オプションを選択解除すると、BMC のメンテナンス ポリシーは無効になります。</p> |

| 名前 | 説明 |
|------------------------|---|
| [Schedule] ドロップダウン リスト | [Reboot Policy] が [Timer Automatic] に設定されている場合、メンテナンス操作がサーバに適用されるタイミングはスケジュールによって指定されます。Cisco UCS は、スケジュールされた時刻にサーバをリブートし、サービス プロファイルの変更を完了します。 |
| [Create Schedule] リンク | この Cisco UCS ドメイン内のすべてのオブジェクトで使用できる新しいスケジュールを作成します。 |

ステップ 6 [OK] をクリックします。

次のタスク

ポリシーはサービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートにインクルードします。

メンテナンス ポリシーの削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2 [Servers] > [Policies] > [Organization_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 [Maintenance Policies] を展開します。
- ステップ 4 削除するメンテナンス ポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。
- ステップ 5 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

遅延展開のための保留アクティビティ

Cisco UCS ドメインで遅延展開を構成すると、保留中のすべてのアクティビティを Cisco UCS Manager で表示することができます。ユーザの確認応答を待っているアクティビティと、スケジュールされたアクティビティを表示できます。

Cisco UCS ドメインに保留中のアクティビティがある場合、Cisco UCS Manager GUI は、管理者権限を持つユーザがログインしたときにそれを通知します。

Cisco UCS Manager は、すべての保留アクティビティについて次のような情報を表示します。

- 展開され、サーバと関連付けられるサービス プロファイルの名前
- 展開の影響を受けるサーバ
- 展開により発生する中断
- 展開によって実行される変更



(注) 特定の保留アクティビティがサーバに適用されるメンテナンス時間を指定することはできません。メンテナンス時間帯は、保留アクティビティの数およびサービス プロファイルに割り当てられているメンテナンスポリシーに応じて変化します。ただし、保留アクティビティがユーザの確認応答またはメンテナンス時間帯のいずれを待っているかにかかわらず、管理者権限を持つユーザは、手動で保留アクティビティを開始して、ただちにサーバをリブートできます。

保留アクティビティの表示

手順

ステップ 1 ツールバーの [Pending Activities] をクリックします。

ステップ 2 次のいずれかのタブをクリックします。

- [User Acknowledged Activities] : 完了する前にユーザ確認が必要なタスクを表示する [Service Profiles] タブと [Fabric Interconnects] タブが含まれています。
- [Scheduled Activities] : 関連するメンテナンス スケジュールに基づいて実行されるタスクを表示します。

ステップ 3 表の行をクリックし、保留アクティビティの詳細を表示します。

[Server] 列のリンクをクリックすると、Cisco UCS Manager によってサーバのプロパティが表示されます。

ユーザの確認応答待ちサービス プロファイル変更の展開



重要 保留中のアクティビティを確認した後、Cisco UCS Manager が影響のあるサーバをリブートすることは止められません。

手順

-
- ステップ 1 ツールバーの [Pending Activities] をクリックします。
 - ステップ 2 [Pending Activities] ダイアログボックスで、[User Acknowledged Activities] タブをクリックしてから [Service Profiles] タブをクリックします。
 - ステップ 3 即時展開する保留中の各アクティビティの [Reboot Now] 列のチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって保留中のアクティビティの影響を受けるサーバがただちに再起動されます。

ユーザの確認応答待ちのすべてのサービス プロファイル変更の展開



-
- 重要** 保留中のアクティビティを確認した後、Cisco UCS Manager が影響のあるサーバをリブートすることは止められません。
-

手順

-
- ステップ 1 ツールバーの [Pending Activities] をクリックします。
 - ステップ 2 [Pending Activities] ダイアログボックスで、[User Acknowledged Activities] タブをクリックしてから [Service Profiles] タブをクリックします。
 - ステップ 3 ツールバーの [Acknowledge All] チェックボックスをオンにします。
Cisco UCS Manager GUI が、テーブル内のすべての保留中のアクティビティに対して [Reboot Now] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって、テーブル内にリストされている保留中のアクティビティに影響されるすべてのサーバがただちに再起動されます。

スケジュールされたサービス プロファイル変更の即時展開



-
- 重要** 保留中のアクティビティを確認した後、Cisco UCS Manager が影響のあるサーバをリブートすることは止められません。
-

手順

- ステップ 1 ツールバーの [Pending Activities] をクリックします。
- ステップ 2 [Pending Activities] ダイアログボックスの [Scheduled Activities] タブをクリックします。
- ステップ 3 即時展開する保留中の各アクティビティの [Reboot Now] 列のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって保留中のアクティビティの影響を受けるサーバがただちに再起動されます。

スケジュールされたすべてのサービス プロファイル変更の即時展開



- 重要** 保留中のアクティビティを確認した後、Cisco UCS Manager が影響のあるサーバをリポートすることは止められません。

手順

- ステップ 1 ツールバーの [Pending Activities] をクリックします。
- ステップ 2 [Pending Activities] ダイアログボックスの [Scheduled Activities] タブをクリックします。
- ステップ 3 ツールバーの [Acknowledge All] チェックボックスをオンにします。

Cisco UCS Manager GUI が、テーブル内のすべての保留中のアクティビティに対して [Reboot Now] チェックボックスをオンにします。

- ステップ 4 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって、テーブル内にリストされている保留中のアクティビティに影響されるすべてのサーバがただちに再起動されます。

■ スケジュールされたすべてのサービス プロファイル変更の即時展開